

平成22年5月26日

大東建託株式会社
(株)松島木材センター
熊本県
九州森林管理局

ツープайフォー
スギを活用した2×4建築への挑戦

熊本県でスギを活用した2×4による建築が拡大
住宅着工が減少する中で、国産材の新たな需要を創出
スギ間伐材の需要創出により森林整備に貢献

- 1 熊本県産のスギを、2×4住宅の部材に活用する取り組みが始まりました。この取り組みは大東建託(株)と「くまもと県産材共同集出荷センター」が協議を重ね、(株)松島木材センターが部材を供給することとなったものです。(株)松島木材センターでは熊本県林業研究指導所の部材強度試験などを経て、我が国初となるスギの2×4部材のJAS認定も取得しました。
また、スギ原木の安定確保については、九州森林管理局ほか関係者の連携・協力により実現したものです。
- 2 このスギを活用した集合住宅は第1号の熊本県八代市竹原町の物件を皮切りに、5月1日現在、12棟が建築されており、24棟が建築中となっているなど、スギ2×4部材を活用した建築が熊本県で拡大しています。
- 3 昨年の新設住宅着工戸数は80万戸を割り、一昨年に比べ30%近く落ち込むなど、林業、木材、住宅産業にとって厳しい状況となっています。
一方では、国内の森林資源は、戦後植えられたスギ、ヒノキなどの人工林を中心に充実しつつありますが、間伐などの手入れが必要な森林が森林面積の多くを占めているのも現状です。間伐などの手入れが遅れると、国土保全や水資源のかん養などの森林の持つ公益的な機能が低下することが懸念され、CO₂の吸収源として温室効果ガスの削減にも影響を及ぼすこととなります。
このようなことから、国産材がほとんど使われていなかった2×4の建築物にスギの間伐材などを活用することは、国産材の新たな需要創出につながるものであり、林業など地域産業の活性化や地域の森林整備の推進にも大きく寄与するものです。
- 4 大東建託(株)においては、熊本における取り組みを検証し、全国各地におけるスギ間伐材などの国産材利用を検討していく意向であり、今後、4者で協力してスギの利用を推進する上での課題をクリアし、熊本発の国産材需要の拡大に取り組んでいくこととしています。



県産スギを使用したスタッド



建設中の2×4住宅

< 添付資料 >

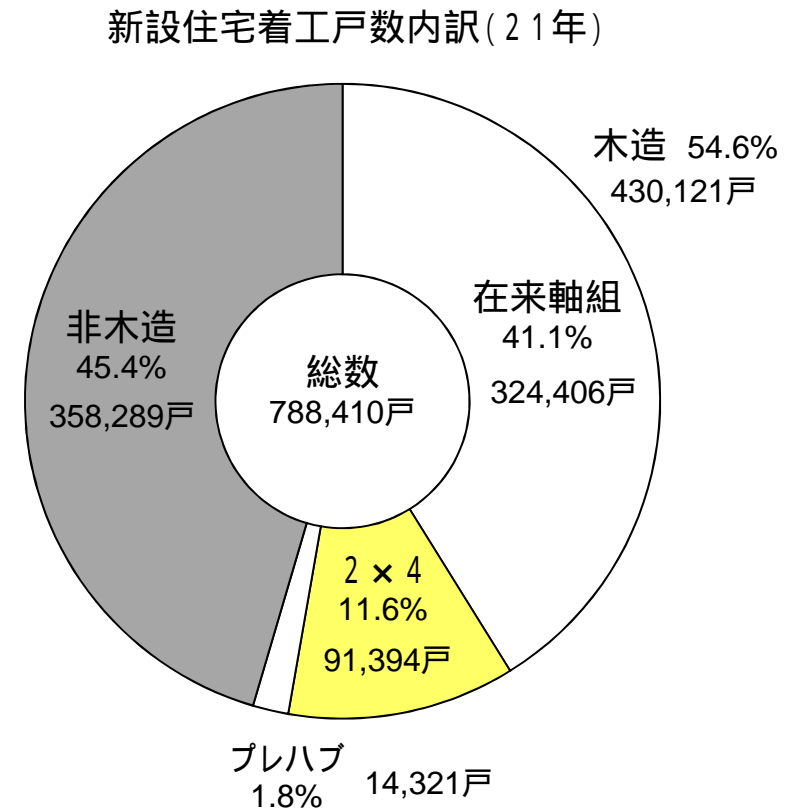
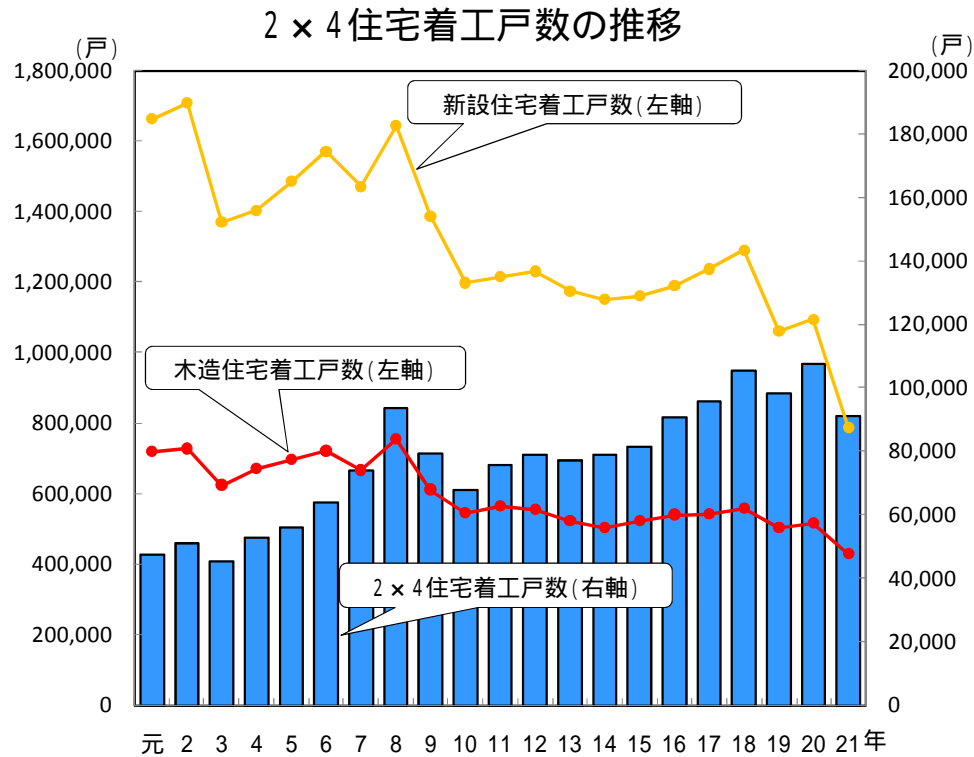
- 1 2×4住宅の新設着工戸数の推移及び内訳
- 2 人工林の齢級別面積
- 3 森林整備に資する木材利用
- 4 間伐推進に貢献
- 5 2×4部材の国産材利用による地域活性化

問い合わせ担当

大東建託(株)	熊本支店	永田	TEL096-365-7766
(株)松島木材センター		鋏本	TEL0969-56-2222
熊本県	林業振興課	白石	TEL096-333-2448
九州森林管理局	販売課	工藤	TEL 096-328-3651

1. 2 × 4住宅の新設着工戸数の推移及び内訳

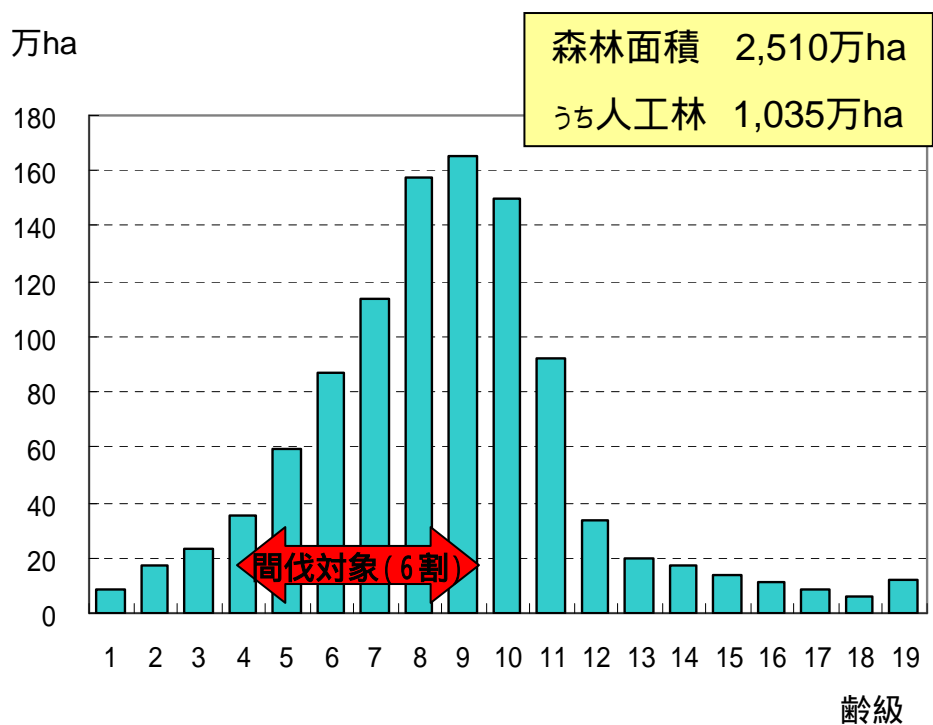
2 × 4住宅の新設着工戸数は、木造住宅の着工戸数が停滞する中、着実に増加し、平成18年には10万戸を突破
 着工戸数の内訳をみると、全体の約1割、木造の約2割を占める



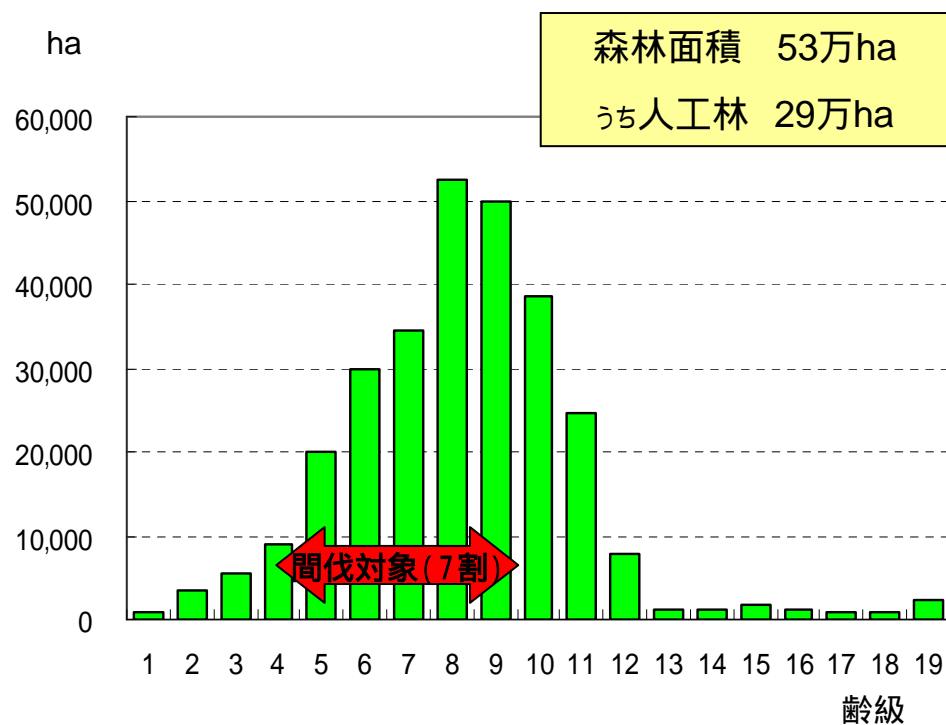
資料:国土交通省「建築着工統計」

2. 人工林の齢級別面積

全国の人工林齢級別面積



九州局の人工林齢級別面積



(注) 齢級とは、森林の年齢を5年の幅で括ったもの。人工林は、苗木を植栽した年を1年生とし、1～5年生を1齢級、6～10年生を2齢級と数える。

3. 森林整備に資する木材利用

木材の利用は、我が国の健全な森林の整備、適切な森林の管理・保全につながる。

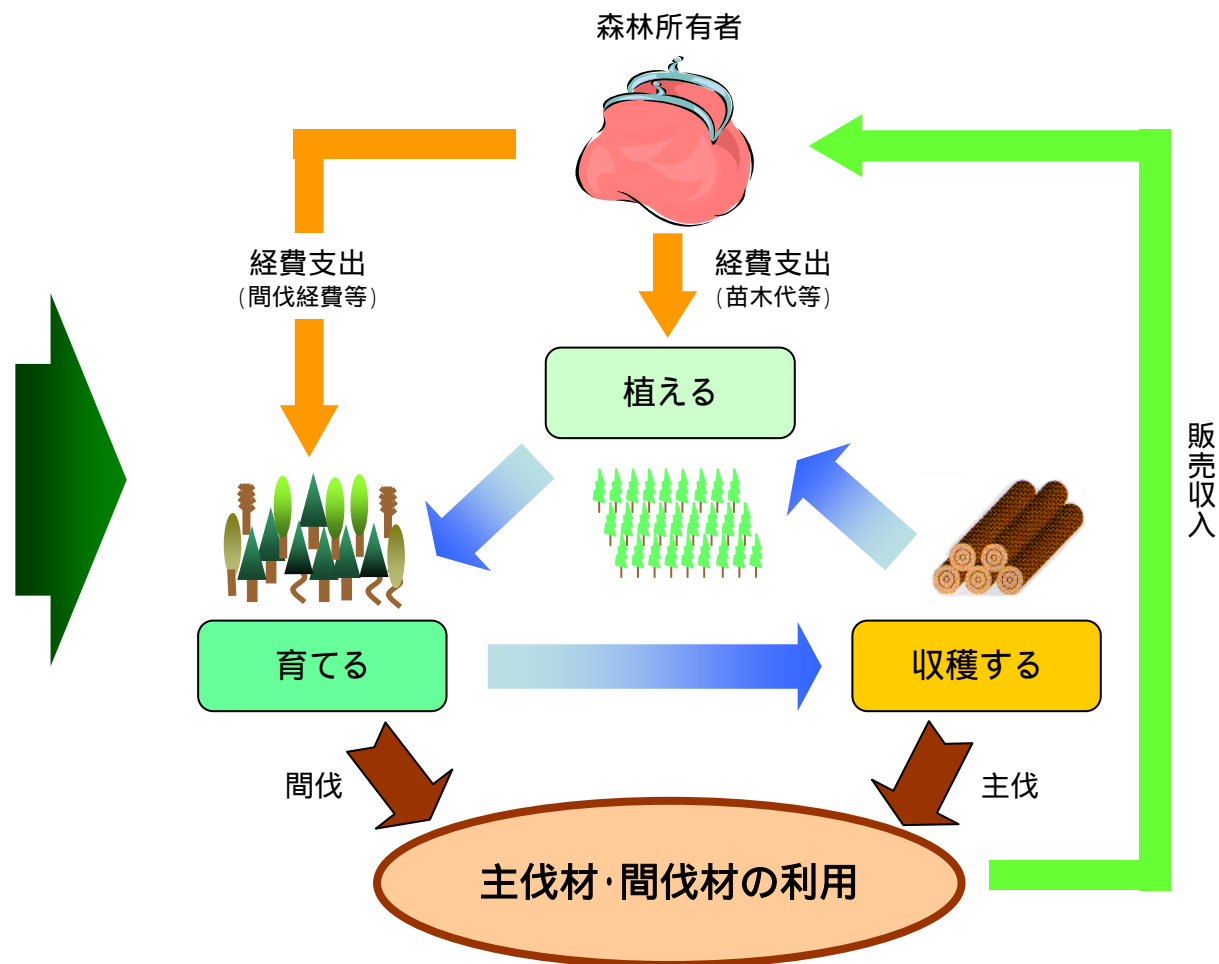
主伐材や間伐材の利用推進を図りながら、
”植える 育てる 収穫する”という森林整備を推進

「京都議定書」において温室効果ガス排出量の6%削減が国際約束

このうち2/3に当たる3.8%は、国内の森林によるCO2吸収で対応

このため、植える、育てるといった「手入れ」を行う森林の面積を増やすことが必要

手入れには資金が必要

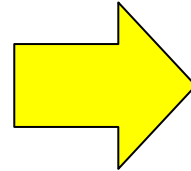


4. 間伐推進に貢献



間伐が遅れた森林

林内に光が入らず下草が生えていない森林は、土壌の流出が起こりやすく、雨水を蓄える力も低下。また、風倒木が発生しやすい。



間伐が実施された森林

林内に光が入り込み、下草が繁茂している森林は、雨水が土壌に浸透しやすく、水源かん養、国土の保全機能が高い。

2 × 4住宅(集合住宅)におけるスギ使用量が寄与する間伐面積(試算)

大東建託が1棟に使用するスタッドは約14m³

間伐木(立木)に換算

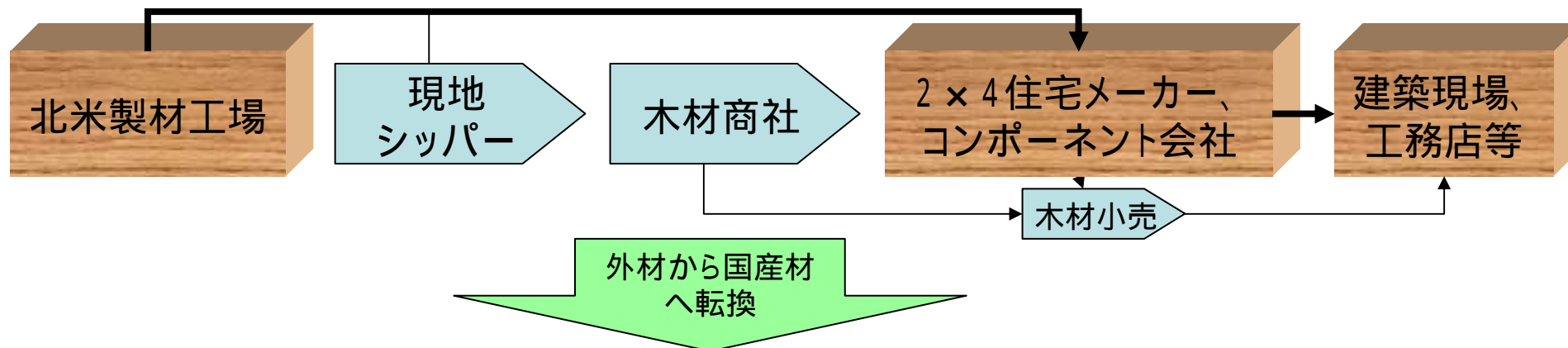
約52m³

間伐1haで伐採される立木の材積は約108m³
1棟あたり約0.5haに相当

昨年、大東建託が熊本県内で建設した住宅は約140棟。これを全てスギ間伐材のスタッドを用いて建設したとすれば、**間伐面積70ha(東京ドーム約15個分)の推進に寄与。**

5. 2 × 4 部材の国産材利用による地域活性化

北米産SPF使用



国産杉使用の場合(2 × 4 住宅1棟あたり)の地域経済への効果(試算)

